

## 教育の充実を

08. 8. 29. えんど久子 一般質問

### ① 教育の信頼回復のために

#### 【 質問 】

教員の不正採用の問題で、きのうの一般質問で3番議員・原田議員と17番議員・野口議員の質問に教育長が、信頼を損ねたことに反省の弁を述べ、信頼回復に向け全力で取り組んでいくと、決意表明された。しかし、何を反省されたのか私にはわかりにくかったので、教育長にもう一度お聞きしたい。

7月14日の地元紙で報道された内容、10年前に県の教育次長の時のことを語った記事の中で「私は口利きではなく推薦と思っている。推薦があった人すべてを不正に採用したわけではない」この認識は今も変わっていないのか。それとも変わったのか。「それを口利きというだ」というのが、多くの人の感覚であり、市民感覚だと思う。そこをきちんと反省し、その感覚を変えない限り、信頼回復はできないと思う。推薦だと言っても、そのために採用されるはずの人が採用されなかったという事実があるわけだから、とても大事なところだと思う。明確に答弁していただきたい。

#### 【 教育長答弁 】

私がマスコミに発言したことについては、当時、私は推薦というかたちで、『いい方がいるので、ぜひお願いします』という感覚で受けていたことは事実。ただ、いろんな解釈の中で口利きであると言われている。それはそれなりに考えていかなければならない。

#### 【 質問 】

まだ、わかりにくい。そこを反省しているのかどうなのか。もう一度答弁を。

#### 【 教育長答弁 】

私が反省したと言った中身に、議員がいわれた点も含まれている」と答弁しました。

#### 【 質問 】

私たち日本共産党は、7月15日に教員採用汚職の問題で申し入れをした。「第1に、不正の全容解明を求め、別府市教育委員会として口利きの実態調査

をすべき。第2に教育委員会が、不当な圧力に屈することなく、また文部科学省や県教委からの指示を実行するだけの上意下達の機関ではなく、教育環境の整備や子どものための専門的な助言を行なうという本来の任務に徹することが必要です。そのために、別府市教育委員会がつねに教育現場の声に耳を傾け、職員会議の民主的運営、子どもや保護者らの学校運営への参画などをすすめ、教育委員会や学校を、子ども、保護者、教職員などに開かれた自由にもの言える場にするなど、信頼回復に全力をあげることを、強く求めます」という内容で申し入れをした。あたりまえのことではあると思うが、今後さらに努力していただきたい。

また、教員採用が狭き門になっていることが、今回の要因のひとつにあると考える。条例定数は、4年前H16年に8060人だったが、H20年7731人に、329人削減されている。教育現場でも教員の増員は切実な要求であり、市教育委員会から県教育委員会へ教員の定数増員を積極的にはたらきかけてもらいたい。

#### 【 教育長答弁 】

前段での議員の発言については、きのう信頼回復に努力すると述べたことの中に、含まれている。

先生を増やすことが肝要ではないかということについては、県の条例は、国の標準法を変えていくことが先決であり、全国教育長連合会で毎年国に要望している。今年も7月に要望した。教員増員も要望した。国のおおもとの標準法を改善してもらいたいと要望した。今後も要望していく。

#### 【 質問 】

その点は私たち日本共産党も長年取り組んできたが、今後がんばっていきたい。

## ② 学校いきいきプランの待遇改善を

#### 【 質問 】

学校いきいきプランの充実については、これまでもくり返しくり返し要求してきた。市教委としても努力しているが、まだまだ十分ではない。時間数を増やす努力がいま特に必要ではないか。

【 学校教育課長答弁 】

全国の市町村で、特別支援教育支援員の制度として、いきいきプラン的な事業で支援員3万人にたいし360億円の予算となっている。一人あたり暫定基準額として、年間110万から120万という給料査定になっている。別府市の状況は他市と大きな開きはない。少しでも支援員の時間数を増やすことができないかという点については、現場の要求でもあり、検討したい